

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲第 957 号	氏名	渡邊 貴之
論文審査担当者	主査 田中 榮司 副査 本田 孝行・菅野 祐幸		
(論文審査の結果の要旨)			
<p>IgG4 関連疾患では甲状腺機能低下を多く合併することが報告されている。IgG4 関連疾患の代表的な病変として自己免疫性膵炎、硬化性胆管炎、涙腺唾液腺炎、尿細管間質性腎炎、後腹膜線維症があるが、IgG4 関連疾患で認められる甲状腺機能低下が IgG4 関連疾患に含有されうる病態か検討した。</p> <p>IgG4 関連疾患症例 114 例を対象とし、甲状腺機能低下・甲状腺自己抗体合併頻度、IgG4 関連疾患活動性マーカー、ステロイド治療への反応性、甲状腺画像所見、甲状腺病理所見を後ろ向きに比較検討した。</p> <p>その結果、渡邊は次の結論を得た。</p>			
<ol style="list-style-type: none">114 例中 22 例(19%)に甲状腺機能低下(TSH>4 mIU/L)を認めた。22 例中 11 例は顕在性甲状腺機能低下 (FT4<1 ng/dL)であり、11 例は潜在性甲状腺機能低下 (FT4≥1ng/dL)であった。甲状腺機能低下例では抗サイログロブリン抗体陽性または抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体陽性を半数に認めた。甲状腺機能低下 22 例と甲状腺機能正常 92 例の血清学的比較では、甲状腺機能低下群において IgG、IgG4、免疫複合体、β2 ミクログロブリンは有意に高値であり、C3 は低値であった。ステロイド治療前後の TSH・FT4 の評価が可能であった甲状腺機能低下 10 例において、TSH は治療後に有意に低下し ($p=0.005$)、FT4 は有意に上昇した ($p=0.047$)。顕在性甲状腺機能低下群、潜在性甲状腺機能低下群、IgG4 関連疾患における甲状腺機能正常群、甲状腺機能が正常な他疾患の 4 群における甲状腺容積の比較では顕在性甲状腺機能低下群の甲状腺容積が他群と比較して大きい結果であった。IgG4 関連疾患診断時に甲状腺癌も同時に診断された 1 例(甲状腺機能正常)の甲状腺切除検体において、局所への IgG4 陽性形質細胞浸潤と濾胞構造の消失を認めた。			
<p>これらの結果より IgG4 関連疾患にみられる甲状腺機能低下は IgG4 関連疾患の疾患特徴を有すものであり IgG4 関連甲状腺炎として IgG4 関連疾患に含有されうる病態であることが示唆された。よって主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			